

Management Club Report

Dec.2011/Vol.108

Monthly Opinion《近未来における歯科医院の理想形》

あと僅かとなった2011年という年は戦後最も悲惨な年として日本人の記憶に長く留められることになりました。これ以上の悲劇は今後起こらないことをただただ祈るばかりです。しかし地球全体がおかしくなっている中で天変地異の発生率は益々高まるかのようでもあります。

自然災害はやむを得ないものかもしれませんが、少なくとも経験に基づく人間の知恵によってその被害を最低限に食い止めることができるようにしたいものです。そうでなければ今回の大震災により落命された方々の無念を晴らすことはできません。

不幸にも犠牲となった人たちに報いる唯一の道は、その経験を生かし同じ犠牲者を将来に亘って発生させないことしかないと思えます。災難や失敗から学び、よりよい道を歩もうとすることが智慧のある人間の姿であり、それを生かせず再び同じ災害を被ることがあったならば、それは最早自然災害ではなく人災と呼ばざるを得ません。

私たちの日々の仕事や生活においてもまた然りです。本質を見極めることをせず場当たりの対処療法を繰り返すことばかりしていると、その生活や仕事はやがて腐敗します。これまでの経験、特に失敗の経験から学び基本に立ち返ることができる人は大きな進歩を遂げることでしょう。

今月は、まさにその渦中にある歯科医院でそれぞれの理想とする形を求めて日々奮闘しているスタッフリーダーたちが語った自己変革や自己改革、そしてその先にある近未来の理想形についてまとめてみました。

来年の今頃には、1年を表す漢字一文字が『進』とか『光』とか『輝』といった明るい字になることを願いたいと思います。よいお年をお迎えください。



第5回スタッフリーダー・ミーティング発表者
左より瀧口悟、岡田早香、山田智子、佐藤あゆみ、増田豪の各氏